

2030年への夢・目標・ビジョン

先月11月18日、創価学会は創立90周年を迎えました。組織も自分も今は創立100周年を目指して進んでいます。社会はコロナの広がりでも世界も日本も不安の雲に覆われていますが、その中であって創価学会またSGI（創価学会インタナショナル）の存在は大きな希望になっていくと確信しています。地域でのお互いの交流と激励、分断と対立が続く世界で生命尊厳を掲げる市民のネットワークが蘇生の力になっていくと思うのです。

11月22日付けの機関誌・聖教新聞の1面に掲載された池田大作先生の詩「四季の励まし」は、不安に打ち勝ち生きていく力強い勇気を贈ってくれています。とても感動的なのでここにその前半部分を紹介させていただきました。

「創立100周年へ希望の出航！」

希望のある人生は、明るく朗らかである。歓喜があるからだ。
希望に輝く人には、皆が引き寄せられる。充実があるからだ。
希望溢れる所には、笑顔の花が咲き薫る。未来があるからだ。

希望とは、未来を信じる信念である。
希望とは、挑戦し続ける勇気である。
そして希望とは、今日より明日への たゆみない前進である！

希望がなければ、自分が希望を創るのだ。それが幸福である。
「希望」を創っていこう！
どんな絶望的な状況に 立たされたとしても、
そこから、平和の方向へ、希望の方向へ、勝利の方向へ、生き抜いていける。
そして断固として 価値創造してみせる——これを「創価」というのである。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

後半は「全員が人生に勝利して幸福になってほしい」との先生の熱願の言葉と祈りです。電撃に打たれる思いで私はこの詩を胸に刻みました。「希望」とは「夢」「目標＝ゴール」「ビジョン」とも取れると思います。そこで私は抱いていた2030年までの自分の夢を改めてノートに書き出しました。私事ですがそのさわりを紹介してみますと：

- 創立100周年は米寿（88歳）に当たる。そこまで健康で可能なあらゆる分野で最大限に広宣流布に貢献していく。
- 明年にはオリンピック・パラリンピックが予定されている。大会ボランティアとして自身の海外体験・語学研さんを発揮する最後の舞台として価値的に貢献していく。
- 毎日3000遍以上の唱題、適切な運動、リズムある生活で体力作りと健康管理を十分にしていく。新型コロナウイルスには絶対感染しない。
- 居住団地の会員の占有率を理解者、応援者を含めて10%まで高めていく。
- 10年後には4人の孫が19歳から28歳になる。彼らが立派な後継者となるように応援していく。2030年には全員が一堂に会し創立100周年をお祝いしたい。

さあ、2030年を目指して頑張るぞ！